

gooddays

Vol. **35**

around KANDA NISHIKI - CHO
New Culture & Alternative Lifestyle

2024 WINTER ISSUE
PRICE 0 YEN

社長に聞いた、神田錦町に拠点を構えるワケ。



Interview President!

社長に聞いた、 神田錦町に拠点を構えるワケ。

TEXT • Taichi Ueda / Monami cho
PHOTO • Yuta Suzuki / Satoshi Tachibana

靖国通りと大手町丸の内の間に挟まれ、かつては空白地帯であった神田錦町エリアに、いま新たに大きなオフィスビルが次々と生まれています。

そして、大手の金融関連会社やものづくりメーカー、クリエイティブチームに新進気鋭のスタートアップなど、実に多種多様な会社が、新しい仕事の拠点として神田を選び始めています。

江戸から続く下町風情が残っていたり、味の確かな老舗飲食店があちらこちらに点在していたり、音楽や本、スポーツなどのカルチャーが充実していたりと、このまちの魅力を挙げたらきりがありませんが、仕事人たちは神田をどんな風に捉えているのでしょうか。

今回のgooddaysでは、長きにわたって神田に拠点を構える企業の社長にフォーカス。過去から現在にかけて、まちの変遷をつぶさに見つめてきた彼らに、いま改めて、神田の魅力やこれからのこのまちへの期待をたっぷりと語ってもらいます。



ショッピングやグルメを楽しめる、新旧入り混じった神田錦町界隈。毎号テーマに沿って、こだわりのある人にインタビュー。神田のヒト・モノ・コトに出会える情報チャンネルです。



Q.三洋貿易と神田のつながりはいつからですか？

会社は今年で76年目になります。歴史がありますね。実は神戸が発祥で、三井物産神戸支店のメンバーが、財閥解体を機に作ったのが三洋貿易になります。ですが、1964年、東京オリンピックの年ですね、やはり商流の中心である東京に拠点を移動しました。当時の写真を見ると、周辺には何もなくて、皇居もよく見えました。それからずっと神田錦町です。

Q.新谷社長にとって神田はどんなまちですか？

やっぱり、ふるさとですよ。私が入社したのが1982年。はやいものですね。このまちで入社して、このまちとともに育った。途中に海外赴任をNY、バンコク、NYと3回挟んでいるのですが、足がけ40年以上このまちにいるわけですから。たしかはじめての海外赴任の送別会は馴染みのカラオケ店の店主から「がんばれ新谷」って扇子をもらいましたね。本社に戻って来れば、まちのみんなが「おかえりなさい」って言ってくれる。神田のいろんな顔が思い浮かびます。

Q.このまちのいいところは？

まずは立地ですよ。どこにでもアクセスが容易い。大手町まで5分。神田駅まで11分。竹橋も5分。小川町も淡路町も使えます。だからお客さんが来るにしても、東京駅から遠方の方が来るにしても、アクセスがいい。あとは、そうしたお客さんがいらした時にお連れする店がたくさんある。高級店も、昔ながらの老舗も、モダンなレストランもあって、選択肢が豊富。そこが大手町や丸の内とは違うところですかね。それに地域のつながり。町内会やお祭りが大切にされていることはもちろんですし、うちの会社でもコロナ禍中にご近所の飲食店と連携して社員にディスカウント券を配りました。自然に助け合い、支え合いがありますよね。

Q.これからのまちに期待することは何ですか？

全部が同じまちになっても面白くない。新橋はサラリーマンのまち、大手町丸の内はビジネスがあって、神田はやっぱり人間味ですよ。ITや技術が進化しても結局人間自体は昔から変わっていない。神田には江戸時代からの景色や情緒がまだ残って、伝統的なお祭りが続いている。お神輿は大手町までいきませんから(笑)。近代化はどのまちでもできるので、神田のそうした人間味を大切にしたいまちづくりに期待しています。

代表取締役社長 新谷正伸さん



人間味あふれるまち、神田は自分を育ててくれたふるさと。

三洋貿易株式会社 1947年、貿易商社として設立。現在は、ゴム、化学品、グリーンテクノロジー、産業資材、ライフサイエンスの5事業部門で、市場ニーズの高い商品を提供。業界でいち早くニューヨーク駐在所を開くなど、グローバルに業容を拡大。今後も、さらに海外市場の開拓を強化し、お客さまにより喜ばれるサービスを目指す。



Q.このまちとのつながりはいつ頃からですか？

竹尾は1899年に京橋で創業したのですが、1900年に表神保町に、そして1907年ここに神田錦町に移転してきました。だから私は幼少の頃からこのまちで育ってきましたし、本籍もここです。このエリアは昔から、出版社や印刷業、取次や書店も多かったし、教育機関もたくさんあったので、紙を扱う仕事なので、先代が先を見越して、出版や教育の聖地だったこのまちを拠点に選んだのだと思います。

Q.このまちの好きなところを教えてください。

このあたりは靖国通りと皇居、丸の内に挟まれた緩衝地帯。丸の内に対して「丸の外」なんて呼んでいるのですが、大きいビルが並び立つ隙間の余白のようなまちですね。昔ながらのおにぎり屋さんや風情のある店がちょこちょこ点在しているのがいいです。あとは、地域のつながりがしっかりとある。みんなが地域貢献しようとしていますよね。私たちも積極的に町会や消防の会合にも参加していて、毎朝の近隣の掃除を心がけています。

Q.竹尾のショールームである見本帖も神田にありますね。

ショールームは最初は青山に作りました。竹尾の紙を愛用してくださるクリエイターさんやデザイナーさんの仕事場は赤坂とか渋谷にあって、見本紙を持って、銀座や日本橋にあるクライアントの企業さんに提案に行くわけです。だから、彼らのテリトリーである青山を選びました。ただやっぱり、地元のこのまちにも自分たちが何の会社なのかもっと知って欲しいし存在感をもっと出していきたいなど、20年前に錦町に本店として見本帖を作ったのです。今年は竹尾主催の紙の祭典「竹尾ペーパーショウ」も初めて神田で開催して、地域との接点を増やしています。

Q.神田のまちもどんどん変化しています。これからの神田への期待は？

さっきの言葉でいうと「丸の外」だった神田も、テラススクエアや神田スクエアができて、丸の内のように働くまちになってきました。それはそれで賑わうのでいいことだけでも、ちゃんとこのまちの「らしさ」や「におい」は残ってほしい。ただ働いて飲み食いするだけじゃない、文化を発するまち。あのエリアにいくと、モノだけではなく、美しいことや心地よい時間に触れられる。そういうまちであってほしい。もちろん竹尾としても、そうした価値をまちに提供していきたいと思っています。



代表取締役社長 竹尾綱さん



美しいものや心地よい時間。大切にしたい神田ならではの「におい」。

株式会社竹尾 1899年創業の紙の専門商社。製紙会社・デザイナーと共に、豊かな質感や色を持つ紙「ファインペーパー」の開発を手掛け、数々のオリジナル商品を生み出す。ショップ兼ショールーム「見本帖本店」や、約9,000種の紙を販売するWebストア「takeopaper.com」の運営などを通じて、ファインペーパーの魅力を社会に広める。

KANDA Walking

Guide

Jimba cha
la
Nishiki cho

編集部が歩いて回れる
おすすめ神田ルートをご紹介。
今号は特別に社長のお二人におすすめ
のお店を教えていただきました！ぜひ
gooddaysを片手に散歩してみてください。



美味これくしょん 神田倶楽部
東京都千代田区神田錦町2-7-22
03-5280-5858
11:30-14:30 (L.O.14:00)
17:00-22:30 (L.O.21:45) 土日祝休
https://www.facebook.com/bimikandaclub/?locale=ja_JP



神田でランチといえばここ。全部のメニューがおいしいですが、中でもメンチカツがおすすめ。メンチカツなのにモチモチしてる。昼の12時には混むので、11時30分または13時以降に行くのが狙い目。季節の果物を使った自家製ケーキも絶品。女性客が多いのも納得です。

社長の
新谷正伸
行きつけ！



新谷社長がおすすめするのは「美味これくしょん 神田倶楽部」。オープン当初から通い、コロナ禍で飲食店が大変な時期には、社員にお店の飲食ディスカウント券を配ったそう。神田カレージャンプで「マイスター賞」を受賞したグリーンカレーをはじめ、和洋中あらゆるジャンルの料理を提供しているこのお店で特におすすめのメニューは「もち豚メンチカツ」。サラダ、スープ、ご飯またはパンがついて大満足のランチタイムになりそうだ。

接待におすすめ！



新谷社長、竹尾社長お二人ともおすすめされていたのが、季節の食材を使った懐石料理やフレンチを楽しめる「四季交楽 然」。外観はオフィスビルだが、エレベーターで9階まで上がると日本庭園のような空間が目の前に広がる。人目を避けた静かな個室空間で、掘りごたつ式の部屋やテーブル席の部屋など、それぞれ利用シーンに合わせて選んで。都心からのアクセスも良く、くつろいで会食を楽しめるとあって、数々の著名人に愛されており、経済小説の巨匠 高杉 良の作品にも登場している。新谷社長はニューヨーク赴任から帰ってきて何回も使っているそう。

竹尾社長がおすすめするのは、「神田 いるさ」。海外のお客さんと行かれることが多く、和気藹々とご会食されているそう。オープンから20周年を迎え常連の方も多く、接待や記念日、最近では女子会でのご利用も増えているという。ランチは、お惣菜や、お造り、季節の天ぷらなど、懐石コースのメニューを詰め合わせた日替わり二段弁当を。(前日までの予約制)ディナーの懐石コースは、季節の素材にひと手間、二手間かけたお料理を提供している。

社長の
竹尾綱
行きつけ！



神田いるさ
東京都千代田区
神田小川町3-14-3 ilusa 1F
03-3294-3212
12:00-14:00 (L.O.13:30)
17:30-23:00 (L.O.22:00)
<https://www.ilusa.jp/index.html>

海外からお客さんがいらした時によくお連れします。品のある日本料理ですが、店内の雰囲気は堅苦しくなくて、とてもフレンドリー。開放感もあって、海外の方がみなさん喜びますよ。



四季交楽 然
東京都千代田区神田錦町3-13
竹橋安田ビル9階
11:30-14:00 (L.O.13:00)
17:30-22:00
パーティー利用 11:30-21:30
土日祝休

共立女子大学
家政学部

神田ばとんりれえ

terra

KANDA BUTTON RELAY
...第12回...

神保町の女子大学教授が
おすすめする、
神保町の日本酒酒場

食料栄養学科 教授

伊藤裕才さん



小栗山大介さん、
美紀さん

オーナー夫婦



共立女子大学

「女性の自立と自活」を建学の精神に、明治19(1886)年に創立。自然科学や社会科学、人文科学系の学部の中に医療・芸術・メディア・建築デザインなどが含まれる“小さな総合大学”としてきめ細やかな教育が特徴。東京駅から徒歩で通える都市型大学でもある。
東京都千代田区一ツ橋2-2-1
<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/>

terra (てら)

2019年に神保町の路地裏にある、築60年の古民家を改修してオープンした日本酒バル。オーナーの地元である千葉の食材をメインに、家庭料理と千葉の地酒を提供する。山や旅、音楽が好きなお客さんも多く集まる。
東京都千代田区神田神保町1-18-8
16:00-23:00 不定休
<https://www.instagram.com/oguterra/>



お店は私の地元の千葉の地酒と料理を発信することをコンセプトに2019年にオープンしました。神保町を選んだのは偶然でしたが、蓋を開けてみれば、自分の趣味の山登りと音楽が好きなお客さんととの相性が良く、このまちにご縁があったんだなと思います。飲食店というよりお家のリビングのように過ごしていただけたら嬉しいです。お客様は20代～80代まで幅広く、さまざまな方がいらっしゃいます。大学教授の伊藤さんと出会えたのもまちのおかげです。同じ千葉県出身なので毎回楽しく情報交換をしています。この店に立つ毎日が幸せです!

「ちょこっと3点セット(900円)」、「鯨のタレ(800円)」、「瓜の鉄砲漬(400円)」

日によって変わる3点のおつまみと、ピリッとしたお漬物「瓜の鉄砲漬」。そして伊藤さんのお気に入りメニューの「鯨のタレ」は、鯨肉のジャーキーで、鴨川あたりの名産品なのだそうです。



お店がオープンした直後に初めて伺いました。中学の先生だった奥様の教え子が偶然私のラボのメンバーで、お店でバイトをしていたのです。私も千葉出身なのですが、千葉県でこんなにも多くのお酒が造られているとは知りませんでした。灯台下暗しとはこのことですね。鉄砲漬や鯨のタレのような千葉の珍味も楽しませてもらっており、千葉のおいしさを再発見することができました。2階には素敵な座敷があり、研究室のみなんで宴会することもあるのですよ。



神田ばとんりれえ

PHOTO WALL Vol 17

テラススクエア
フォトエキシビジョン
2023/11/20(月)～2024/2/16(金)
開館時間8:00-20:00(最終日のみ19:00まで)
休館日 土日祝・年末年始 入場無料

テラススクエアでは、パブリックスペースを活用した
フォトエキシビジョンを開催中。
キュレーターが考える日本の風景とは

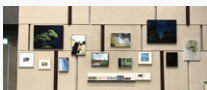


TERRACE SQUARE PHOTO EXHIBITION #29

Dialogue with photography #3

29回目のテラススクエアフォトエキシビジョンは、本展キュレーターである加藤孝司が掲げたテーマをもとにゲスト写真家と対話を重ねて展示を行うテーマ展「Dialogue with photography」の3回目。今回

のテーマは「ニュードメスティックランドスケープ」。本展キュレーターが考える都市でも郊外でも大自然でもない日本の風景。



テラススクエア
東京都千代田区神田錦町3-22

今井智己、三部正博、加藤孝司

今井氏は現代美術の文脈で新しい風景写真を提示し、これまで国内外で作品を発表してきました。三部氏は主に広告やファッションの分野で写真や動画の撮影などで活躍し、近年ではアーティストや著名人のポートレート作品でも知られている作家です。



2023. 10.13.FRI | 神田錦町在住の人、在勤の人、在学の人、大集合!
遊んで、食べて、スポーツして、“ご縁”が育まれるお祭り。

第4回 神田錦町「ご縁日」



よく晴れた金曜日。ちよだプラットフォームスクウェア周辺を会場に、第4回神田錦町「ご縁日」が開催されました。地元の飲食店や企業による屋台の出店や、三線演奏、新店オープンのお祝いなど、神田錦町の吉事を祝福する「みんなで祝い」、共立女子大学によるダ

ンスパフォーマンス、そして大好評の綱引き大会を実施。今年には参加者のマスクも取れ、昨年以上に大盛況だったご縁日。このまちで働く人も、住んでいる人も、学んでいる人も、大人から子どもまでみんなで賑わったお祭りとなりました。来年の開催もお楽しみに!

EVENT INFORMATION

大盛況の屋台!

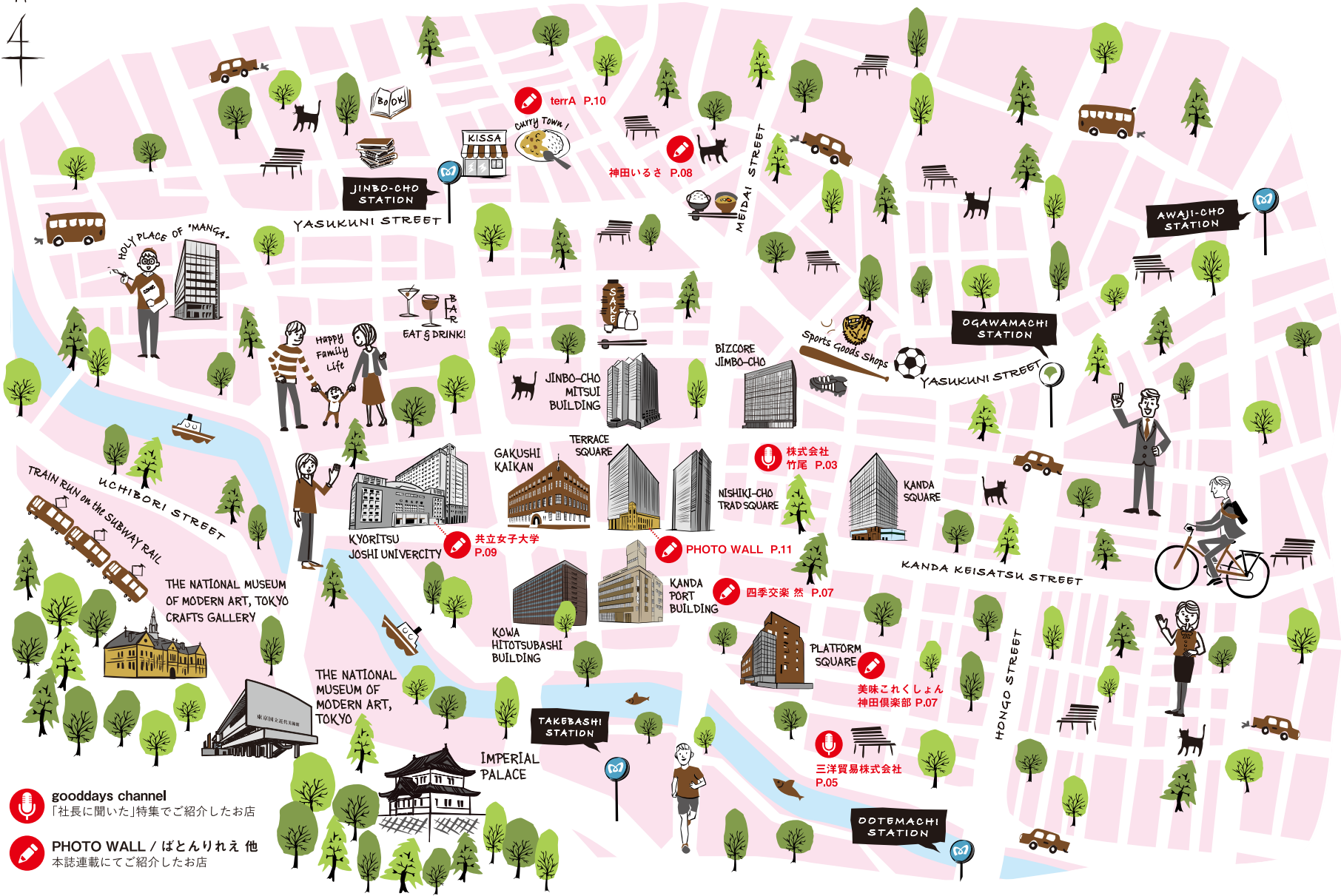


昨年に引き続き地元企業による屋台出店。ほぼ日によるヨーヨーの中にくまのチャームが入った“割れてもさみしくないヨーヨー”釣り、そして今年から神田錦町にやってきたJINSによる、いろんなメガネをとにかくたくさん掛けるゲーム“めが盛り”を実施しました。神田錦町界隈の飲食店の出店も大盛況!

ご縁日の目玉! 白熱した綱引き大会

ご縁日の目玉イベントのひとつが綱引き大会。昨年優勝した“ほぼ日ヒッパレズ”はなんと、自分たちでトロフィーを作ったそう。そんなトロフィーを死守する“ほぼ日ヒッパレズ”は、一回戦目から一瞬で綱を引き、どンドン勝ち進んでいきます。ほかのチームも力を合わせ、体の向きを揃えて、打倒“ほぼ日”として、精一杯綱を引いていきました。白熱していく戦いに見守る側の声援にも思わず力が入ります。結果は……“ほぼ日ヒッパレズ”の優勝! 表彰台に上がり、綱引きによって“つな”がれたことが嬉しい。日本の名物にしたのか!? とコメント。来年はどのチームがトロフィーを勝ち取れるのか!? 楽しみに待ちたいです。





AREA MAP

-  **gooddays channel**
「社長に聞いた」特集でご紹介したお店
-  **PHOTO WALL / ぼとんりれえ 他**
本誌連載にてご紹介したお店

gooddays

グッドデイズ 2024.1.20 発行 / 発行・編集：グッドモーニングズ株式会社 水代 優 www.goodmornings.co.jp

